

武漢市黄陂区の武漢中日産業園（工業団地）について

大分市武漢事務所 賈 芳

今回は昨年発表された武漢中日産業園のホットな情報をご紹介します。昨年11月に上海で開催された第2回中国国際輸入博覧会の会期中に、プレイベントとして同時開催されました「武漢と日本上場企業の対話シンポジウム」の席上で、武漢市は黄陂臨空産業園エリア内に中日産業園を整備することを公表しました。

日本に最も近い臨空産業園

中日産業園は高度な国際物流、ハイテク産業をメインにした国際ビジネス戦略のもとで、高品位の空港衛星都市圏を構築しようとするものです。武漢天河空港は黄陂区にあります。日本との航空路線は5路線あり、武漢と東京、大阪、名古屋、福岡、静岡を結んでいます。

中日産業園の整備計画面積は20平方Kmで、緑の都市生態回廊の環状ゾーンの一部に位置し、漢十高速道（武漢～十堰）に接しています。工業団地の南側は「中日貿易モデルゾーン」、北側に「国際AI製造革新ゾーン」を設け、航空機産業製造エリア、AI智能関連産業エリア、金融文化クリエイティブ産業エリア、情報サービス産業エリア、情報サービスアウトソーシング拠点エリア、スマート物流産業エリアを設定しています。

黄陂区政府担当者によると、昨年11月の計画発表以降、日本企業や日本の業界団体からの問合せや来訪が多く、立地のみならず産業園の整備に関する協力、投資の相談も受けているのだそうです。大型国際空港、陸路水路の最大交通結節点、大消費地、製造拠点都市、最多の大学集積等のポテンシャルが生かされる新たな産業構造が生まれようとしています。

黄陂臨空産業園で躍進する企業

中日産業園が整備される黄陂臨空産業園において既に立地し、大きく飛躍した企業をご紹介します。

中国最大の宝飾企業となった「周大福ジュエリー」は、2012年に黄陂臨空産業園に進出しました。50億元（約800億円 1元16円計算）を投資し「周大福ジュエリー文化クリエイティブ産業団地」として立地しました。今年度の年間出荷額は約40億元で、納税額が8,000元（12億8千万円）にのぼるそうです。

2017年には東京に支店、販売店を開設し、今ではデザインby武漢、メイドin武漢の宝石が日本市場に参入しています。

またアパレル大手の「愛帝グループ」は製品の40%をヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、アジアなど30数カ国に輸出しています。

「愛帝IoTスマート工場」は自動化工場で、製品製造から包装、敷地内運搬、在庫仕分け出荷まで全て自動化されています。

ちなみに設備の70%程度は日本製だそうです。

「武漢恵強」はリチウムイオン電池等のダイヤフラムの製造メーカーです。最近では新エネルギー自動車の開発生産に伴い「BYD」、「鵬輝」、「海四達」、「星恒」、「吉林中聚」等企業のメインサプライヤーとなりました。車両1台あたりダイヤフラムの需要は8,000~10,000㎡とのこと。

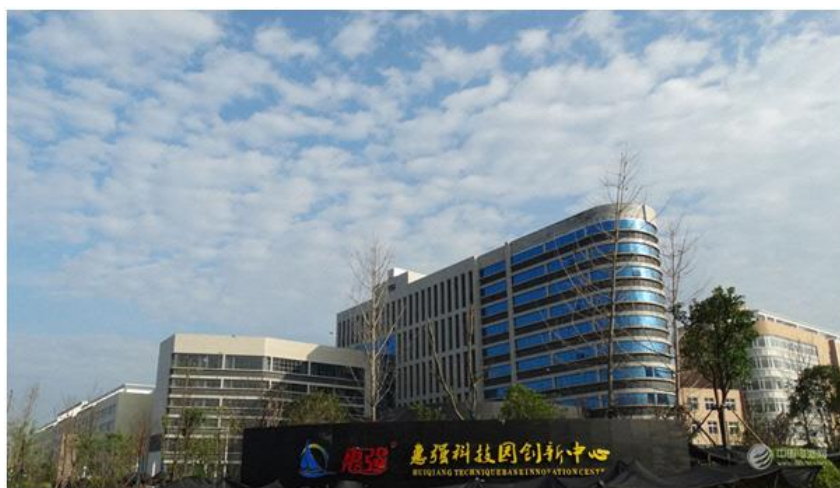


愛帝IoTスマート工場

日系企業がパートナー

園内には卓爾（ZALL）宇宙航空研究開発生産基地が立地しています。現在600機を受注しています。納期直前の数機がすでに空港のタクシーウェイに続く企業エプロンに駐機しています。卓爾宇宙航空集団は、飛行機の研究開発、製造、販売、修理、メンテナンス、パイロット養成などクラスターとしての総合的は航空産業の構築を進めています。昨年2月に卓爾グループは東京で商社の丸紅と合併企業契約を結びました。この合併企業では、もっぱら大型中古旅客機のリース、メンテナンス、部品販売に関する業務を行うことにしているそうです。

臨空産業園では、このように知的財産やスマート化が大きな付加価値となる製品や重量あたりの単価が高い製品など、武漢空港の特徴をいかした企業の集積が進んでいます。その産業園内に誕生した中日産業団地が一つの契機となって、これから日中両国の企業が世界の市場に歓迎される製品を届け、ともに繁栄する姿を思い浮かべながら中日産業園の今後に期待したいと思います。



武漢惠強科学技術センター



武漢惠強技術園

※写真は武漢事務所スタッフ撮影